安曇野
みらい農園

～ 多様な人が農業でイキイキと活躍するために ～

株式会社安曇野みらい農園
代表取締役社長　藤本孝介

会社の概要

（株）かまくらや

地元産そば粉を使用した「本物の信州そば」
を作ることを目的に、平成21年に設立した
農業を主軸に加工・販売を行う会社です。

【会社所在地】　松本市島立454－1
【従業員数】　34名
【　作物　】　そば・大豆・りんご・たまねぎ
　ジュース用トマト・野沢菜
【経営面積】　220ha
【耕作地域】　松本市（四賀・岡田・梓川）
　安曇野市（三郷・田沢）
【　店舗　】　SOBA農房かまくらや
　そば処かまくらや
【グループ会社】㈱安曇野みらい農園
　（A型障がい者就労移行支援施設）
　㈱スズキアリーナ松本

（株）安曇野みらい農園

農業を通じて障害のある方々がその人らしく
自立した日常生活を送ることができるよう
就労の機会と訓練の場を提供している
就労継続支援A型事業所です

【所在地】　安曇野市三郷明盛1361－1
【作業場】　安曇野市三郷温6725
【利用者数】　13名
【スタッフ】　4名（内かまくらやから出向3名）
【生産作物】　陸わさび・にんじん・薬草
【作業受託】　カット野菜・除草作業・
　収穫作業
【作業地域】　安曇野市・松本市

安曇野みらい農園 とかまくらや 経営理念

愛と正義をまず第一に求め、
地域のニーズに応える農産物で、
農地活用と雇用創出をはかり、
既成概念にとらわれず
創意と工夫で楽しみを見つけ、
私たち・お客様・社会と協同の
喜びと平安を創ります。

安曇野みらい農園の概要

農業を通じて障害のある方々が
その人らしく自立した日常生活を送ることができるよう
就労の機会と訓練の場を提供している
就労継続支援A型事業所です

【所在地】　安曇野市三郷明盛1361ー1
【作業場】　安曇野市三郷温6725
【利用者数】　13名
【スタッフ】　4名
【生産作物】　陸わさび・にんじん・薬草
【作業受託】　カット野菜・除草作業・収穫作業
【作業地域】　安曇野市 ・松本市

安曇野みらい農園の概要

農業を通じて障害のある方々が、
その人らしく自立した日常生活を送ることができるよう
就労の機会と訓練の場を提供している
就労継続支援A型事業所です。

【作業時間】　8時40分～16時00分
【休憩時間】　1時間20分（午前10分･昼食1時間･午後10分）
【休　日】　年間休日105日（週休2日）
有給休暇有
【昼　食】　社食提供

グループ会社
株式会社かまくらやの概要

地元産そば粉を使用した「本物の信州そば」を作ることを目的に、平成21年に設立されました。
農業を主軸にした生産・加工・販売を行う会社。

【会社所在地】　松本市　島立454-1
【従業員数】　34名
【作物】　そば・大豆・りんご・その他
【耕作地域】　安曇野市（三郷）
松本市（四賀・岡田・梓川）
【経営面積】　220ha

農福連携の取り組みパターン

①直接雇用型・・・障がい者を正社員やパートとして雇用するやり方

＊障がい者への理解や働き方、仕組みが健常者に準じた形になっている

＊雇用人数の限界がある

②福祉完結型・・・障がい福祉サービス事業者が単独で農業を行う

＊農業知識や農業運営の知識が必要

＊天候に左右されるため働き方が一定ではない

③連携型・・・農業者と外部の障がい福祉サービス事業者が連携する

＊お互いの業務内容を理解して連携できるかが課題

④グループ内連繋型・・・農業者が障がい福祉サービビ事業を併設し運営する

＊福祉サービス事業の人材確保や知識、福祉サービスへの理解が課題

安曇野みらい農園の業務内容

＊生産作業（B to B）

・陸わさび生産・にんじん生産・薬草栽培・唐辛子

＊作業受託作業（かまくらやからの受託）

・除草作業・りんご作業・トマト苗育苗・トマト収穫作業

・玉ねぎ苗育苗・野沢菜収穫作業・開墾作業

＊カット野菜作業

・人参カット・玉ねぎカット（ムキ玉）

＊就労継続支援A型とは？

就労継続支援A型とは、障害のある方が自身の障害や体調にあわせて、雇用契約を結んだ上で働く機会を支援する福祉サービスのひとつです。

・精神疾患などの障害・病気によって一般企業への就職が困難な方に対して、
　就労機会を提供すること

・生産活動を通して、知識の蓄積、能力の向上に必要な職業訓練などの
　福祉サービスを提供すること。

就労継続支援A型は、障害のある方へ上記の内容を提供することを目的としています。

＊基本的に事業所と「雇用契約」を結んで働く

就労継続支援A型の場合、事業所（支援を受けられる場所）と直接雇用契約を結んだうえで、自分にあった仕事に従事することができます。もちろん、その労働の対価として給料（賃金）をもらうことができ、最低賃金も保証され、勤務する日数・時間数によって社会保険・雇用保険への加入義務もあります。

比較的、一般企業で働く（以下：一般就労）のと近い形で働くことができます。そのため、福祉サービスを受けながら将来的に一般企業への就職を目指すための準備を整えることも可能です。

取り組みのきっかけは・・・
障がい者直接雇用と養護学校からの職場体験実習

農業と福祉・・・農福連携 とは

農福連携とは、障害者等が農業分野で活躍することを通じ、自信や生きがいを持って社会参画を実現していく取組。
農福連携に取り組むことで、障害者等の就労や生きがいづくりの場を生み出すだけでなく、**担い手不足**や**高齢化**が進む農業分野において、**新たな働き手の確保**につながる可能性もある。

農業と福祉（障害者）の連携という狭い意味で捉えられがちな農福連携だが、農の向こうには**農林水産業**や**6次産業**などがあり、福の向こうには障害者だけでなく、高齢者、生活困窮者、触法障害者など社会的に生きづらさがある多様な人々が包摂されます。
農と福のもつ意味の広がりが生み出す新たな価値への期待が込められている。

《　農業の仕事　》

＊農作物を作る

・誰が・何を・いつ・どこで・どのくらい・どのように

＊農作物を売る

・売れる作物を作る（作りたい作物が売れるとは限らない）

POINT!

《　計画（戦略）×　栽培　×　販売　》

「農業」≒「食料品製造業」

《　農業の役割　》

安心安全な農作物の生産・供給を通じて、私たちが生きていく上で欠かせない「食」を支える大切な役割を担ってる。

また、**農家が田畑を維持する**ことで、

景観維持・洪水 の防止・環境 の循環を守る

ことにもつながる。

POINT!

《　地域を維持・継続する　》

農業と福祉の連携とは…見えてきた課題

福祉…

・福祉制度が複雑で理解が難しい
・年間での作業体系作りが課題、障がい者一人一人の特性を見極めて作業を与える必要がある
（仕事量や指示の出し方、目標設定の仕方等）
・作業場所が変わり天候、気候に左右されるため不安定になりがち
（きめ細やかな支援計画）
・生活面の支援は必要不可欠
（特にA型事業所では金銭管理は要注意）
・支援員のスキルが必要
（障がい者支援、農業経験、販売ノウハウ、マネージメント等）

農業…

・天候や病害虫の発生による作業の変更
・同じ商品が毎回、必ず生産できるとは限らない‼
・規格や基準に合わせた選別、出荷が大変
・作物は工場製品のようにストップすることができない（待ってはくれない）
・作物、時期によって作業内容が大きく変わる
・作業習熟が難しい
・年間での作業体系づくりが課題

…などの課題、問題点がある

農福連携事業の取組
【(株)かまくらやと(株)安曇野みらい農園】

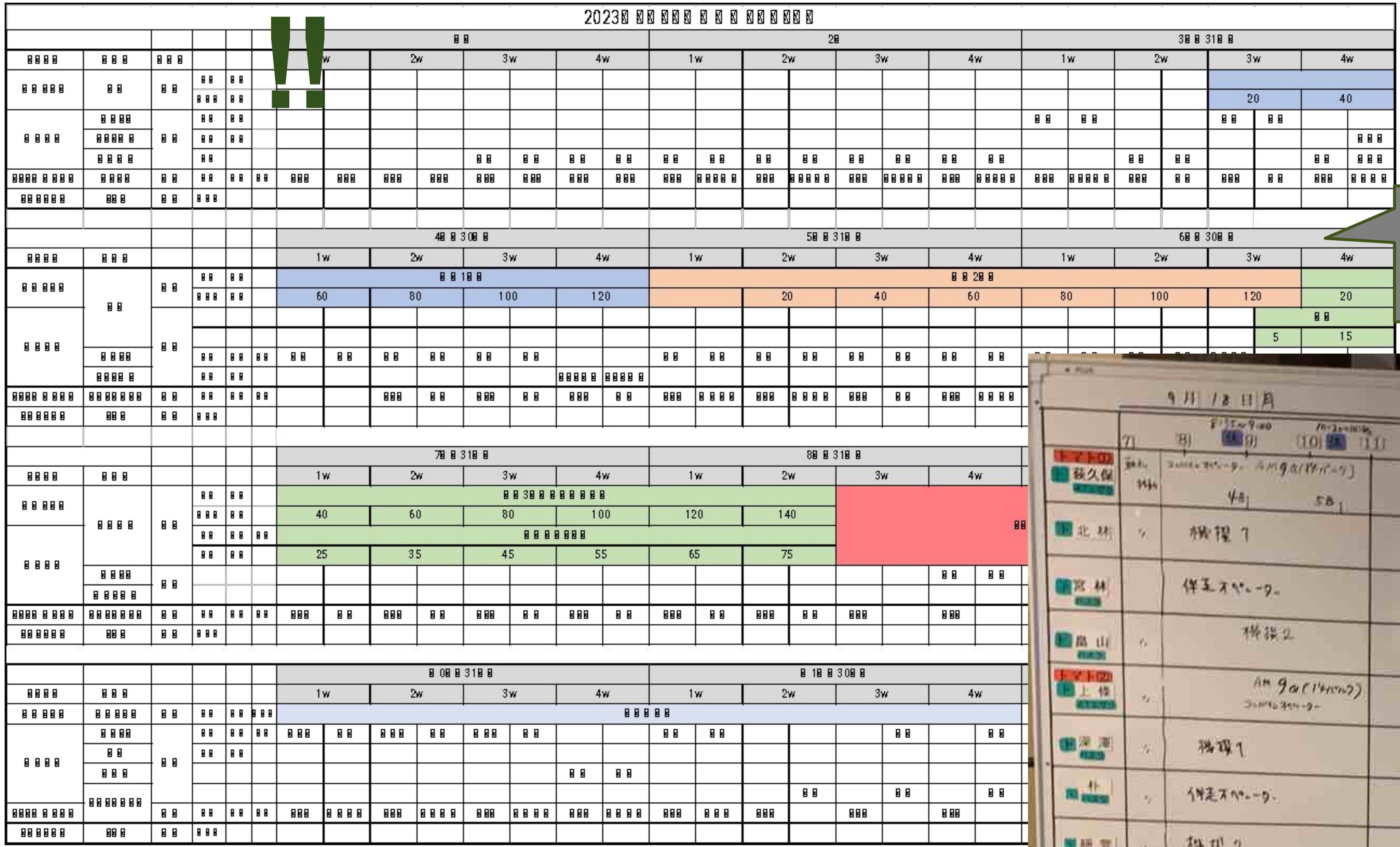
《かまくらや》

《 計画 × 生産 × 販売 × 福祉事業 》

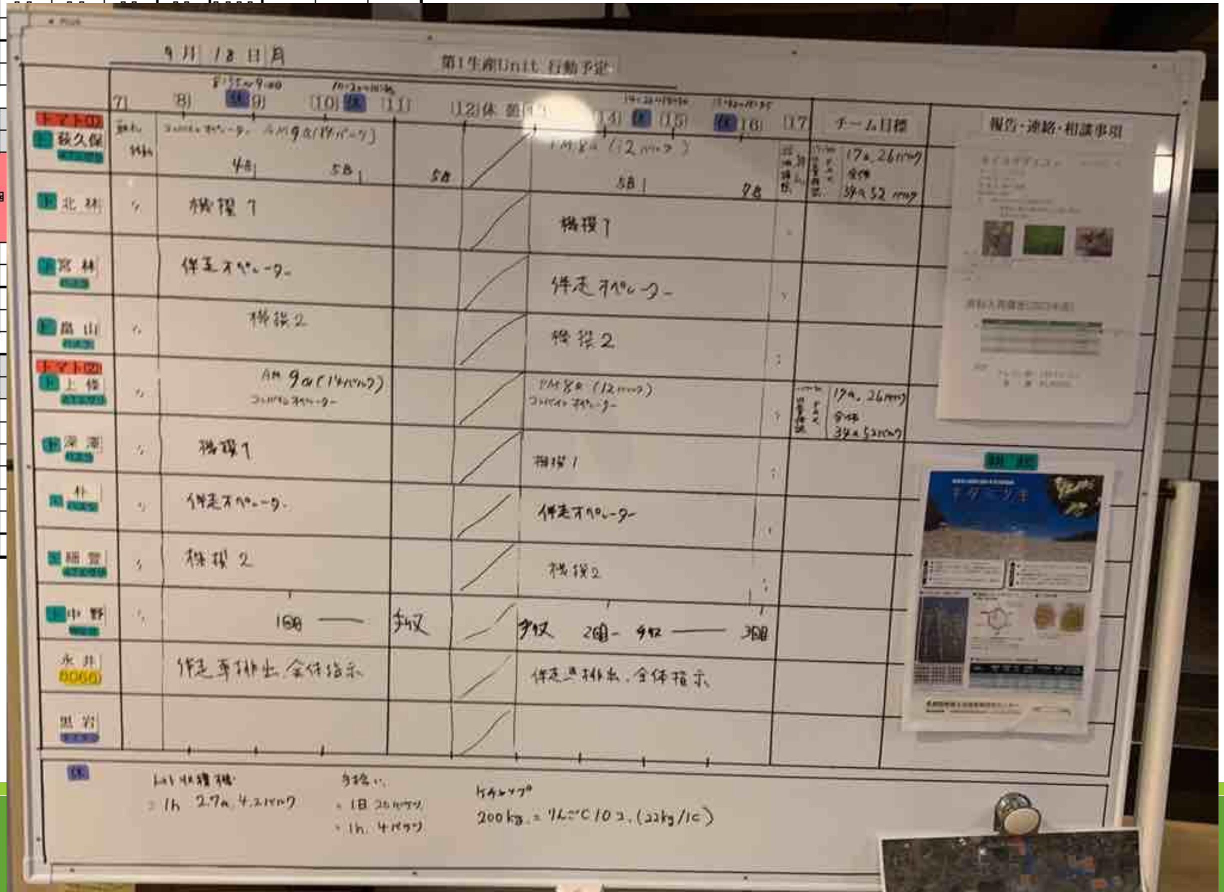
＊**生産**関わる**作業**を担う《安曇野みらい農園》

（雇用契約を結び最低賃金を払う形態）

作業の見える化で課題解決へ!!



年間作業計画を作成



日々の作業計画を作成

「安曇野みらい農園」と「かまくらや」が
協働で持続可能な農業・地域社会の実現を‼

ご清聴ありがとうございました。